

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Status of Pregnant Women's Mental and Physical Stress and Influences of Work

和文タイトル: 妊婦の精神的・身体的ストレス状況と労働による影響の調査

ユニットセンター(UC)等名: 福岡ユニットセンター
サブユニットセンター(SUC)名: 産業医科大学サブユニットセンター

発表雑誌名: 日本職業・災害医学学会誌

年: 2017 月: 7 巻: 65 頁: 201-210

筆頭著者名: 阿南あゆみ
所属UC名: 産業医科大学サブユニットセンター

目的: 妊婦のストレス状況と労働による妊娠・出生児への影響を、信頼性・妥当性が検証されている精神的ストレス尺度(GHQ28)、ならびに労働者の酸化ストレスレベルの測定指標として精度が実証されている酸化ストレスマーカー(尿中8-OHdG)をもちいて、妊娠時期別に追跡調査を行なうことを目的としました。

方法: 自然単胎妊娠の145名の妊婦さんの同意を得て、妊娠初期(妊娠12~16週)・妊娠中期(妊娠22~26週)および妊娠後期(妊娠32~36週)に、生活状況や就業状況、精神的ストレス状況(GHQ28)を調査し、さらに尿中酸化ストレスマーカー(8-OHdG)を測定しました。

結果: 妊婦のストレス状況は就労・非就労を問わず、妊娠初期の精神的・身体的ストレスが最も高く、妊娠後期になるにつれて低下することが明らかになりました。また初産婦である就労妊婦の精神的ストレスが非就労妊婦に比べて高いことが明らかになりました。

考察:(研究の限界を含める)
妊娠初期の精神的・身体的ストレスが高い結果は、悪阻による症状が最も影響を及ぼしているものと考えます。また就労妊婦は、妊娠を喜ぶ気持ちがある一方で、仕事を続ける事への不安や出産後への職場復帰等への不安のため、精神的ストレスが非就労妊婦に比べて高くなったものと考えます。

結論: 医師や産業保健スタッフが妊婦保健指導を行なう際は、特に妊娠初期の就労妊婦への支援を行なう必要があることが明らかになりました。また、初産婦である就労妊婦への心理的支援を行なうことが重要です。今後も、安心・安全に就労妊婦さんが働き続けることができる職場環境作りが必要です。